

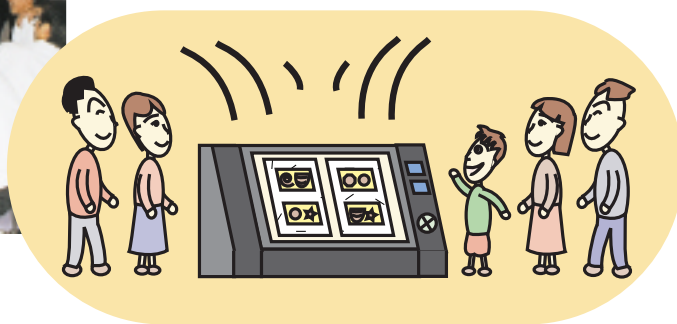
No. 1
1998.7.31

いしかわの遺跡

新埋蔵文化財センター オープン



見て、
触れて、
調べる展示室



財団法人 石川県埋蔵文化財センター
Ishikawa Archaeological Foundation

〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地 1
TEL 076-229-4477 FAX 076-229-3731

ごあいさつ

石川県埋蔵文化財センターは、「遺跡の調査研究」、「調査成果の公開」、「出土品・記録資料の保存管理」の3つの機能をもつ、埋蔵文化財の総合施設として整備されました。

みなさんが気軽に訪れ、楽しみながら郷土の遺跡や歴史を学べるよう、最新の映像機器を備えた展示室を設けるなど、広く一般に開放しています。平成12年度には、縄文・弥生のムラを復元し、そこで土器作りやはた織りなど、様々な古代の生活体験ができる「歴史体験公園」もオープンする予定です。

当センターでは、遺跡の保護と活用を図るための各種事業を実施し、みなさんに親しまれるような施設運営を行っていきたくと考えています。学校教育や生涯学習の場として大いに活用されることを期待します。

まいぶんセンターの仕事

遺跡とは、先人が残したさまざまな生活の跡をいいます。遺跡まいぞうぶんかざい（埋蔵文化財：略して「まいぶん」）には昔を知る情報がたくさん埋もれており、歴史のロマンと郷土への愛着や誇りを感じさせる秘めた魅力があります。

私たちは、これから何か大事なことを決めようとするとき、まず現状を知り、そしてなぜ今ようになったか過去を調べます。歴史をさかのぼり、そこから学ぶことは、人間が正しく行動していくためには不可欠なことです。

まいぶんセンターでは、みなさんが住む地域の歴史や文化の成り立ちを知る上で欠くことのできない「遺跡」を大切に守り、その魅力を伝えるとともに、これを未来の人たちにも引き継いでいくため、次のような仕事をしています。



発掘調査

道路や建物などの工事で地下にある遺跡が壊される場合、事前に発掘調査を行い、地下に眠るさまざまな情報を記録に残します。



出土品整理

発掘調査の出土品を分類、整理し、図面や写真に記録して保存活用を図ります。



報告書刊行

発掘調査の成果を報告書にまとめて刊行します。印刷物は、当センターや市町村教育委員会、図書館でみることができます。



保存処理

木や金属の出土品は地中にある間にもろくなっています。これらを保存するため、材質を調査し、化学的な処理をします。



資料管理

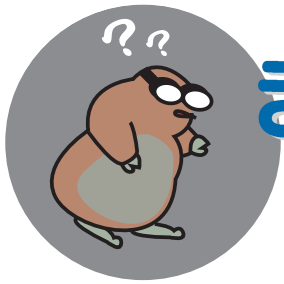
発掘調査の図面や写真、出土品などを保存管理（コンピューターによる資料管理システムを導入）し、公開の要望に応えます。



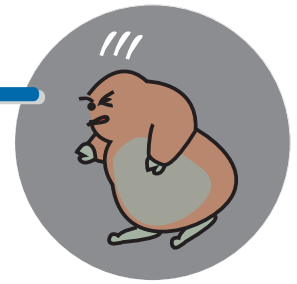
普及啓発

発掘調査の成果を公開し、郷土の歴史や文化財に親しみを持っていただくために、展示室の運営や各種行事を開催します。





まいぶんセンター 館内探検



埋文センターでは役員以下、3部8課に分かれ、100名あまりの職員が働いています。

管理部 総務課 理事会、人事管理、給与、施設・財産の管理など

経理課 予算・決算、契約事務など

企画部 企画課 全体事業計画、普及啓発、出土品・記録資料の収蔵管理、保存処理

整理課 出土品の整理

調査部 調査第1～4課 発掘調査、報告書刊行（4月～12月は、主に発掘現場での仕事のため、夜以外、部屋に人影はまばらです。）

1階平面図

研修室

収蔵庫

大型木器水槽

建物外観

風の丘

2階平面図

木製品保存処理室

資料保存室

低温収蔵庫

管理部

企画部

調査部

研修室

整理作業室

図書室

写場

遺跡調査最前線

これが発掘現場だ

金沢城跡編



まいぶんセンターでは、現在、県内16箇所で発掘調査を行っています。北は珠洲市南黒丸遺跡^{みなみくろまる}から、南は加賀市柴山出村遺跡^{しばやまでむら}まで、調査課の職員が各地へ飛び散って日々発掘に汗を流しています。本紙では毎号、普段知られることの少ない発掘現場の奥に潜入し、そのようすを伝えていきたいと思ひます。

発掘現場にいるのは、主に調査員と作業員さんです。現場内をうろろしてみんなに指示を与えたり、図面を描いているのが調査員。実際に遺跡を掘って、貴重な出土品の第1発見者になるのが作業員さんです。調査員は、遺跡からどれだけ情報（歴史）を引き出せるかがウデの見せどころ、日



本丸附段調査風景

夜勉強に励んでいます。

発掘現場は公開されています。みなさんも近くに立ち寄ったら、調査員に声をかけて見学させてもらいましょう。

ただし、調査中の遺跡には大きな穴があったり、大型機械が動いていて危ないこともあるので、調査員の指示に従ってください。



滝川 調査員 大阪府出身 31歳
通称「センターのなんでも鑑定団」、中近世の遺跡を掘りたくて金沢に来た考古学青年



熊谷 調査員 入り鉄砲に出女？
通称「センターの警備保障」、鉄砲所跡の発掘で一躍、全国でも屈指の鉄砲考古学者の仲間入り



土田 調査員 ニューフェイス
得意技はグラフィック（Macをあやつる）と留学経験もある英会話、センターでは異色の才能を発揮

金沢城跡の発掘調査は、本丸附段^{ほんまるつけだん}、三の丸、二の丸五十間長屋、いもり堀の4箇所で行われています。これまでにはほぼ調査が完了した本丸附段調査区では、大規模な石敷階段跡が見つかり、三の丸調査区では、幕末^{ひなわじゅう}に火縄銃を改造していた鉄砲所の鍛冶場跡^{てっぽうどころ}が発掘され、たくさんの鉄砲の部品が出土しました。



鉄砲所跡から出土した火縄銃の部品



お城の三人娘？
鉄砲金具から文字を発見！



発掘器材室
宝物を発見する道具



作業員室
ここが戦士の休息場所

出土品が日の目を見るまで

もうひとつの現場



出土品整理



出土品整理とは、遺跡から掘り出された出土品（遺物という）や生活の跡（遺構という）を記録した図面・写真を、将来にわたって保存、活用していくために、分類・整理して資料化する作業のことをいいます。

発掘調査は現地作業だけでなく、出土品整理をし、調査報告書が刊行されてはじめて完了となります。泥のついた出土品を洗い、実測図を描く作業の中で、新しい発見が山のようにあることはあまり知られていません。出土品整理は新たな情報を発掘する「もうひとつの現場」なのです。

出土品整理の主な作業は、埋文センターの整理課で行っています。現地での発掘以上に知力、体力、根気がある仕事かもしれません。一度見学してみませんか（センター受付へ申し出てください）。

出土品整理作業の流れ



洗浄 泥をていねいに洗い流す



分類・接合 種類別に分ける 割れた所を接合する



実測 土器の形を正確に測り図面を描く



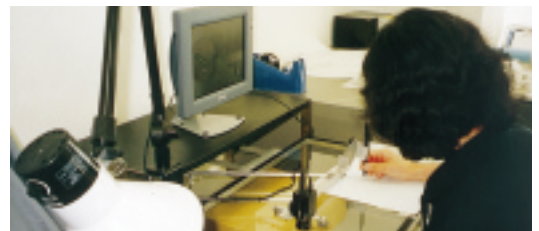
実測 実測道具のあれこれ



注記 出土地点などを1点1点に書き込む



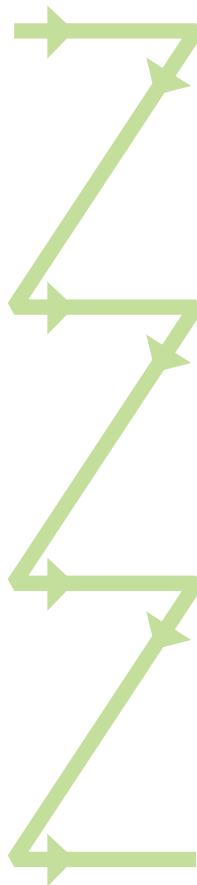
復元 破片のない所は石コウで補う



実測 実測器を使って図面を描く



トレース 報告書の図版用にトレースする



保存処理室 出土品の病院



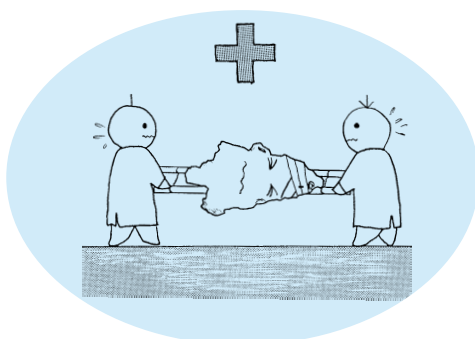
全国の遺跡から発掘される出土品の約7割（石川県は約8割）は、土器や陶磁器といった焼き物です。ほかには石や木、金属でできた製品などがありますが、焼き物に比べればたいへん少ない数です。

これは、決して当時の生活のようすを伝えているわけではありません。古代には、木や鉄の道具をたくさん使い、ワラ細工や織物、皮製品など、さまざまな素材がありました。しかし、これらはみな腐ったり、錆びて粉々になったり、長くは保存されにくいものばかりです。また、木は燃料として、鉄も焼き直して再利用ができます。出土品に焼き物が多いのは、それが他のものより腐らずに残りやすいというのが大きな理由です。

昔はたくさんあったのに遺跡からあまり出土しない金属製品や木製品などは、当時の社会を復元する上でたいへん貴重なものとなります。彼らは土中では、保存の大敵である塩分や菌にさらされているので、仮に生き残って発掘で地表に顔を見せたとしても重病人であることが多いのです。

このような出土品はどれだけ重要なものであっても、そのままではみなさんに見ていただくこともできませんし、将来にも保存していくことができません。そこで必要となるのが保存処理 - 出土品の治療なのです。

埋文センターでは、保存処理が必要な金属製品と木製品の二大患者のために2つの保存処理室を設けています。今回は、金属製品保存処理室の一部を紹介します。



金属製品保存処理室
 中にはレントゲン室があり、顕微鏡や薬品のビンが並ぶ。
 白衣を着たお姉さんがいてやさしく微笑んでいる。
 生徒たちの第一声は、きまって「えーっ、病院みたい!!!」
 ほんとにちょっと病院のにおいがするのだ。

この部屋では、まず金属製品の素材や性質を調べる化学分析を行い、その結果に基づいて、個々の出土品にいちばん良い治療方法を見つけだします。

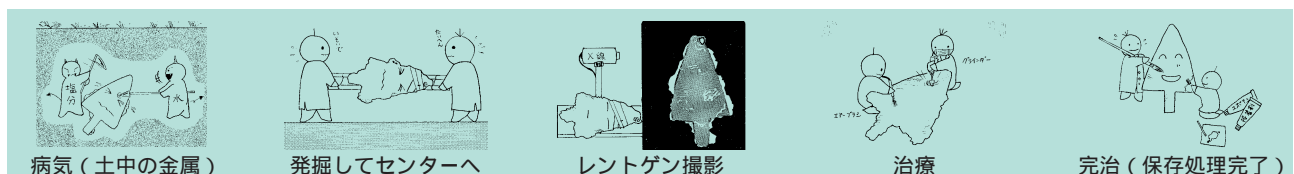
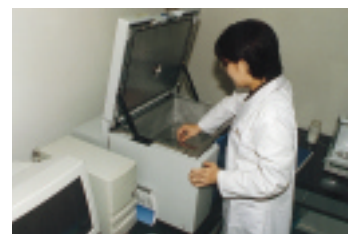
- X線透過撮影装置** サビにおおわれた金属製品の元の形やいたみ具合を調べる。
- 蛍光X線分析装置** 成分（構成元素の種類と量）を調べ、材質を明らかにする。
- 精密噴射加工装置** 金属製品の精密なサビ落としを行う。
- 脱塩処理装置** サビの原因となる内部の塩分を取り除く。
- 減圧樹脂含浸装置** 合成樹脂をしみ込ませて、サビが進行しないようにする。

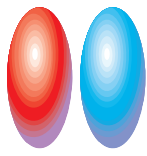


金属製品保存処理室



蛍光X線分析装置で金属の材質を調べる(保存処理担当の中山さん)





訪ねてみよう加賀・能登の遺跡

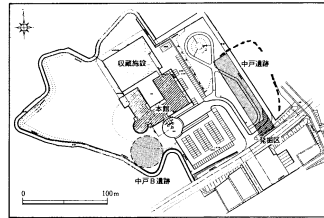
金沢市中戸遺跡

埋文センター敷地の正門を入ると、右手が園路のある小高い丘になっている。この下に眠っているのが中戸遺跡。東に戸室山、医王山を望み、犀川を見下ろすなかなか景色の良いところだ。円筒形にとんがり屋根の展示室前にも小さな遺跡があった。

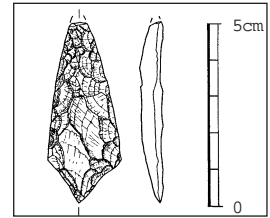
中戸遺跡は1970年(昭和45)と1996年(平成8)に、それぞれ小規模な発掘調査が行われました。今からおよそ5千年余り前、縄文時代前期後葉の遺跡です。

近くにある天池遺跡はさらに古く縄文早期にさかのぼります。また、中戸遺跡からはもっと古い縄文草創期(約1万年前)の有茎尖頭器(狩りに使うヤリの先に付けた石器)が出土しています。

埋文センターのある犀川上流の河岸段丘は、金沢で最も早く人が住み始めた地域の一つなのです。



遺跡の位置

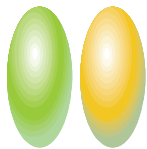


有茎尖頭器



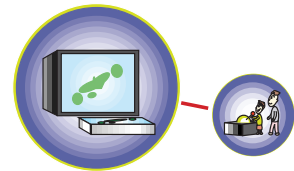
遺跡の航空写真(センター建設前)

参考文献 沼田啓太郎1975「金沢市中戸遺跡調査報告」『石川考古学研究会々誌』第18号
石川県立埋蔵文化財センター1997「中戸遺跡」『石川県立埋蔵文化財センター年報』第17号



展示室のみどころ

スライドショー



大画面マルチビジョンに軽快な音楽が流れ、スライド映像がテンポよく切り替わる。素人っぽいナレーションは手作りの味。

「歴史のアルバム(スライドショー)」は、当センターが全国に誇るサイバーミュージアムのメニューのひとつ。埋文センター職員が画像編集ソフトや音楽編集ソフトなどを使って自前で製作したものです。操作パネルからスライドショーを選ぶと、「弥生時代の建物」「硯のれきし」「水の考古学」「渤海の日本道をたどる」「縄文土器・弥生土器を焼く」と5つの番組タイトルが表示されます。各番組はおよそ3~5分です。面白そうなものを選んで見てみましょう。

これらは、職員の日頃の研究や発掘調査の成果を、音と映像を使ってわかりやすく作ったものです。遺跡を発掘し、出土品を整理すると新しい発見がたくさんあります。このうち新聞等で一般に知られるのはごくわずか、ほとんどは専門家しか見ない報告書に記録されて終わります。私たちは、遺跡が秘めた歴史の1ページ、1コマをいろんなかたちでみなさんにも知っていただきたいと思っています。スライドショーはその手段であり、職員の自己研さんの場でもあるのです。

内容について分からないことやもっと詳しく知りたいこと、こんな番組を作ってほしいなど、どしどし御意見をお寄せください。

サイバーミュージアム

大画面の9面マルチビジョンと石川県の立体歴史地図で見学者が自由に遺跡情報を検索できるシステム。

現在、「調べてみよう石川の遺跡(画像データベース)」「歴史のアルバム(スライドショー)」「遺跡発掘ものがたり(ビデオラブラリー)」の3つのメニューがある。



音声・BGMの入力、編集作業

伝言板

おもしろそう!! 参加してみよう!!

まいばんイベント案内

OPEN

好評 親子の遺跡発掘体験教室

夏休みに親子で参加する遺跡の発掘体験教室。自分の手で大昔の土器や石器を掘り上げる感動が大好評です。

古代のはた織り体験もでき、作品はお持ち帰りいただけます。

日程 7月25日(土) 小松市大長野A遺跡
8月22日(土) 金沢市藤江B遺跡
8月29日(土) 羽咋市四柳白山下遺跡

対象 小学校4～6年と保護者

定員 各地区とも20組



発掘体験



土器作り体験(昨年)

なお、10月には縄文土器作り体験を企画しています。日程等はお問い合わせください。

新装 ふるさと考古学教室

・話題の遺跡講座(11月)

県内で注目を集めている遺跡に関連した話題で、専門家が分かりやすく講演する。

・発掘速報会(3月)

発掘調査の最新の成果をスライド等を使い、いち早く報告する。

・ふるさと考古学講座(6回:9月～3月)

センター職員が講師となり、実物資料にも触れながら聞くふるさとの考古学の入門講座。

日程等は別途案内します。

新規 出前考古学教室(随時)

学校や公民館などの要請により、調査員が出向き、授業や講演、発掘資料の展示等を行う。古代の土器作りや火おこし、はた織りといった体験学習の指導も行います。

地域にある身近な遺跡を知ってもらい、郷土への愛着、文化財への関心を育てることを目的としています。

遺跡や考古学に関することであれば、いつでも御相談ください。

石川県埋蔵文化財センターオープン記念特別展

北陸と出雲の 古代文化交流展

期間 / 平成10年8月1日(土)～8月30日(日)

9:00～17:00(入場は16:30まで)

会場 / 石川県埋蔵文化財センター

主催 / 石川県教育委員会・石川県埋蔵文化財センター

後援 / 島根県教育庁



近頃、子どもたちと話していますか。
[子どもと話そう]全国キャンペーン

石川県では心豊かな子どもたちを育むため「子どもと話そう石川キャンペーン事業」を実施しています。遺跡を通じての大人と子供のふれあいに、当センターの施設及び催し物を利用していただければ幸いです。

参加はいずれも無料。お問い合わせは、
(財)石川県埋蔵文化財センター 企画部企画課まで 電話076-229-4477(代)

利用案内

開館時間

午前9時～午後5時

休館日

12月29日～1月3日

資料の展示替えまたは整理の期間

入場料

無料

交通案内

・兼六園から車で約15分

・北鉄バス 金沢駅発東部車庫行き

末町バス停下車 徒歩約15分

